

第8回 多摩市街路樹よくなるプラン改定委員会 要点録

日時： 平成30年10月19日（金） 14時00分～16時30分

場所： 多摩市役所本庁舎4階401会議室

出席者：【委員】（敬称略）

池邊 このみ 大石 武朗 大橋 久仁恵 清水 義功 仙仁 径 中尾 浩
野村 徹郎 沼田 真也 宮内 泰之

【事務局】

都市整備部長 森田
道路交通課長 内田
道路交通課整備保全担当主査 山本
道路交通課整備保全担当 芦澤・高橋

【傍聴】0名

議事次第

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 第6、7回委員会（現地視察会）の振り返り
 - (2) ワークショップ開催及びアンケート実施の報告
 - (3) 多摩市街路樹よくなるプラン改定版原案作成について
- 3 その他

1 開会

・森田道路都市整備部長より開会の挨拶

2 議事

(1) 第6、7回委員会（現地視察会）の振り返り

1)事務局より資料-1及び2を用いて、標記議題に関する説明を実施

2)質疑応答

意見・質問はなし

(2) ワークショップ開催及びアンケート実施の報告

1)事務局より資料-3を用いて、標記議題に関する説明を実施

2)質疑応答

■ワークショップ

意見・質問はなし

■アンケートについて

委員長：ワークショップの代わりにアンケートを実施することとなったが、その結果、小中学生の多くの意見を収集することができた。しっかりした意見も頂けているので改定版に反映できる材料になったという認識である。

(3) 多摩市街路樹よくなるプラン改定版原案について

1)事務局より資料-4及び5を用いて、標記議題に関する説明を実施

2)質疑応答

■第1章

意見・質問はなし

委員：遊歩道についての定義はあるのか。

事務局：遊歩道は、自転車歩行者専用道路のことを指している。街路は、自動車が通る道路のことである。第1回委員会でお配りした「遊歩道・多摩よこやまの道ガイドマップ」のように、「日本一長い遊歩道」を観光資源としてアピールするために、「遊歩道」という形で表記している。

■第2章

委員長：図2-6について、遊歩道で樹高の高い木が多いように見受けられる。どのような理由が考えられるか？

事務局：遊歩道の樹木には、法面の樹木も含んでいる。遊歩道には電柱もなく、成長を阻害するものがないため、遊歩道の環境の方が大きく成長できるのではないかと。

委員：P.2-3の本文は大径木の説明をしているが、樹木の径を示す図ではなく、樹高のグラ

フが掲載されている。大径木を示す図表があったほうがよい。高さは管理上でのことで、幹の径は大径木のことに関係するので分けて記載したほうがよい。

委員長：街路樹の大径木化に関する課題として、災害の問題は追記してもよいと思った。

委員長：図2-7で、架空線の高さを示すことを検討してほしい。

委員：架空線への枝葉接触について、このような状態も市内で確認されているが、どのような管理がされているのか。

事務局：電力会社などが主に実施している。架空線への街路樹の枝葉接触に関して定期パトロールを実施されており、架線に接触している枝を剪定する申請が行われ、市は作業について許可している。

委員：上部を切りつめるのではなく、緑量を確保するため、架空線周りのみを剪定している事例もある。Y字型に剪定しているところもある。

委員長：架空線への枝葉接触の対策として電線の地中化も国レベルで対策がすすめられている。

事務局：電線の地中化の推進に関しては、東京都の補助金制度も存在する。多摩市では都からの補助を利用して、今年度、調査・検討を行っているところである。

委員：電線を地中化すると、根系切除し、腐朽、倒木のもととなるため、注意することを追記しておいてほしい。費用も膨大にかかることから、対応は随時検討が必要であることも合わせて記載することが必要である。後から地中化するとリスクがあることも記載してほしい。

委員：図2-11の円グラフでは、何に費用がかかっているのか、ひと目でわかるように、示す順序及び色を工夫してほしい。

委員長：除草、草刈から始まっているのはどうかと思う。

委員：図2-13について、剪定は対処療法と当てはめられているが計画的な剪定は原因療法ではないか。原因療法と対処療法という表現も改善を望ましい。

委員：恒久的措置と応急的措置でよいのではないか。

副委員長：管理の方向性として、『管理費用をかけて、街の資産価値を高める』という考え方をきちんと示す必要があると思う。3章以降では、実際にできることを記載していくことでよい。

■第3章

委員：図3-1に示すテーマについて、「多摩市が誇る」では行政が市民に対して誇る意味に解釈できるので、「多摩市民が誇る」にするほうがよい。

委員：テーマについて「みち」だと文章に埋もれてしまうため、漢字や上部に点をつけるなどの工夫をしてはどうか。

■第4章

委員：図4-3正確ではない箇所が存在するため、修正すること。

- 委員 : P. 4-6 の植え木の処理については、同じ場所の図でないため、イメージしにくい。
P. 4-26 の中央分離帯の充実化を示したらどうか。保育園側は間引きでなく撤去を望む
声もあるので、そういったイメージを示したらよい。
- 委員 : 街路樹の中で、草花を用いて空間としての彩りを加えると言う意味での表現が不足し
ているように思う。P. 4-6、P. 4-8 のイメージについても、単に植樹帯を撤去して歩道
幅員を確保するだけでなく、植え木を草花で演出することも表現できると思う。地域
が取り組みやすいのは美化と花壇である。なお、花壇の維持にはコストがかかるとい
うことについても言及するとよいのではないか。
- 委員長 : 国道では花壇にして、維持管理コストが軽減したという報道もされた。足元の彩り演
出は、子育て層等が参画する場となる。国道での事例について今後提供したい。彩りが
あると、幼稚園や保育園、子育て層が入りやすく、コミュニティにも入りやすい。
- 委員 : 表 4-1 「植栽基盤整備」の注釈の内容について再確認すること。碎石層ではない。
街路樹の根の伸長の手法としてあることを記載すること。
- 委員 : 図 4-5 の「カネ・モノの支援」は「資金・資材の支援」としたほうがよい。
- 委員 : 図 4-6 に「宿根草」と「多年草」と記載があるが、生活型で示せばともに「多年草」
である。
- 事務局 : ご指摘の点、承知した。なお、図 4-6 はポンチ絵とすることも検討する。
- 委員 : 表 4-10 中央植栽帯と両側の植栽帯を改変する改善モデルケースを示したらどうか。
- 委員 : 表 4-13 の樹高が一桁間違っているのを、修正すること。

■第 5 章

- 委員 : 街路樹ファンを増やす取組みについて追記してほしい。
- 委員長 : 成果指標については、子育て世代が住みたいまち、健康・コミュニケーション活動、
医療費低減などが長期的な指標項目として考えられるのではないかと。
- 副委員長 : 成果指標については、アウトプットとアウトカムの両方が必要ではないかと。
- 事務局 : アウトカム指標については世論調査の活用で対応することも検討していき
たい。
- 副委員長 : 維持管理費の増加に関する 5 章の記述は、第 2 章でも述べている内容ではないか。こ
こで改めて記載の必要があるか。
- 事務局 : 市民の理解を頂くために、この記載は必要であると考えられるので基本的に
残したい。
- 委員長 : 残すべきと考える。
- 副委員長 : 承知した。
- 委員 : 5. 3. 2 の図について、応急的を示す黄色の範囲が、改善策の実施によりどれだけ削
減できるということを矢印の追記等で示すべきである。
- 委員 : 5. 3. 3 の内容について、市民による低木剪定の推進や他地域のモデル活動を見

学する等の記載をしてはどうか。

事務局：検討したい。また、低木については p4-12 にも記載しているので参照いただきたい。

■参考資料

委員長：資料編の用語解説の見直しが必要である。市民委員の方に特に追加した方がよいと考える単語について提案いただきたい。

事務局：本会議内での提案は困難であると思われるため、用語解説に限らず、全体に対するご指摘やご意見など、後日、メール等により別途事務局まで連絡いただき提案いただきたい。

■全体

委員：「多摩市街路樹よくなるプラン」という名前は、さらに親しみよくするために、テーマをタイトルとするということも考えられないか。

事務局：副題としてテーマを追記する。

委員：この委員会では街路樹に関するよい資料が作られているので、もっと市民に周知してほしい。抜粋して広報に載せたりしてはどうか。

委員長：積極的な周知は必要であるが、広報での発信は紙面の分量の都合などもあり、発信は難しい部分もある。

委員長：街路樹も含めた環境の取組みに関して、今、地方自治体では教育と関連付けた動きが活発化している。

委員：子供に関心を持たせるには、概要版のほか、子供向け資料があったほうがよい。

事務局：概要版の形式で周知を図る予定である。

委員長：次回委員会で概要版の案を提示する。

3 その他

事務局より資料-6 を用いて、乞田川のサクラの健全度調査結果について報告を行った。

意見・質問はなし

4 閉会

・内田道路交通課長より閉会の挨拶